

若い芽

令和7年10月号

2025年(令和7年)10月17日発行

開校 40 周年記念学校祭を終えて

教頭 佐藤 智子

開校 40 周年記念学校祭が大成功のうちに幕を閉じました。これも、生徒の皆さんの頑張り、支えてくださった保護者の皆さま、パートナー小学校を始めとする地域の方々の見守り、そして生徒たちの活動をそばで見守り、苦楽を共にした教職員の力があってこそ、と思います。

学校祭活動中は職員室でも、生徒の皆さんの楽しそうな声やダンスの音楽などが聞こえてきて、学校祭への盛り上がりを日に日に感じていました。学校祭前日の装飾が完成してからの校内はまるで別空間で、「ポップコーン」というテーマで飾られた校内装飾を見て、「ワクワクが止まらない！」と思っていました。どのクラスも自分たちの装飾や発表にプライドをもって取り組んでいる様子が何より嬉しかったです。

当日も、開祭式でステージ装飾の四季が散りばめられている見事な鳥の絵が披露され、これから始まるステージ発表に期待感が高まりました。開祭式では、2年生の知的な展開に感心させられました。ステージ発表は、どの学級も工夫が凝らされていて、1年生の情熱あふれる仲間を思うセリフに感動したり、最後まで犯人が分からない展開で爆笑させられたり、2年生の動物の森に癒されたり、「アナと雪の女王」の発表には「ミュージカルがここで見られるとは！」と驚かされたりしました。7組のストンプは、まるでパレードを見ているかのような華やかさがありましたね！そして3年生はさすがの演技や内容でした。笑いあり、長台詞あり、ダンスあり……。最高の発表内容で、見ているこちら側も釘付けになりました。閉祭式のマツケンサンバ会場の一体感がすごかったですね（笑）。最高のフィナーレでした。

そして忘れてはならないのは、生徒会の皆さんの力です。ステージとステージの間をつなぎ、ハプニングに対応し……。今回の学校祭は 40 周年記念、ということで、開校から 40 年を振り返るスライドも発表してくれました。スライドに写っていた方々は、今は立派な大人になっています。その中には今もこの地域で暮らし、地域を支えてくださっている方々も多くいらっしゃいます。今回の学校祭には本校の第 1 期生でいらっしゃる、あかしや幼稚園園長の清水さんがいらしてくださいました。スライドを見ながら嬉しそうに、「懐かしいです！あの中に私も写っていたかもしれませんね」と笑顔でお話しされている姿が印象的でした。清水さんは、バレー部創設メンバーだったとのこと。多くの卒業生が、今の栄町中学校の礎を築いてくださったのだ、と感じる瞬間でした。

中学校生活 3 年間はとても短いものですが、人生の中で、もしかしたら「自分」を形作るとても重要な役割を担っているのかもしれませんが。「あの時悩んだこと」「あの時ががんばったこと」「あの時一緒に過ごした仲間」……。それが皆さんの中にもキラキラした宝石のようにずっと残ってくれるのならば、こんなにステキなことはありません。私自身にとっても、この 40 年の節目の年を、この学校で、このステキな生徒の皆さんと一緒に祝いできることが誇らしく、嬉しくなるような学校祭だったなあとと思っています。

さあいよいよ、カナモトホールでの 40 周年記念合唱コンクールも目の前に迫ってきました。更に素晴らしい一日になるよう、ラストスパート、頑張ってくださいね。



学校祭を振り返って

<3年1組>

最初は周りのクラスが道具を作っているのに、私たちはまだ何も作っていないで、これで大丈夫なの？と思っていたけど、どんどんいい作品が出来て行って、とても楽しみで、早くやりたいという感情が出てきました。「ポップコーン」みたいに、とてもいい笑顔で、はじけるように楽しい学校祭になりました。最後の学校祭が、これで良かったと思えるくらいにいい思い出になりました。他のクラスを見ていて、私たちの本当に面白いかな？とか、これで大丈夫かな？とか、色々なことを考えていたけど、やってみたらこれで良かったんだ、何も心配する事なんてなかったんだなと思います。40周年らしい学校祭のエンディングになったと思います。この3年1組でやって、私はとても楽しくて最高の思い出になったと思いました。



<3年2組>

今年の学校祭は劇でも普通の装飾でもなく、体育館に飾られている絵の制作担当ということで、今までやったことのないものをどう作るのかと少し不安に思っていました。その一方で、実際の計画やデザイン制作は、初めてやる作業が多くて、仲間と協力して行うことができ、とてもやりがいと達成感を感じました。デザイン案や制作時に意見がぶつかったり、作業をする人としらない人がいたりなどのトラブル等も最初は目立っていましたが、制作時間が進んでいく中で、段々とクラスの多くの人が協力できていったので良かったと思います。学校祭本番は体育館やホールの楽しげでかわいい装飾、面白い劇やダンスの数々を見ることができて楽しい学校祭になりました。また、どの装飾や劇も学校祭に向けて頑張って練習や制作をしてきたことが伝わってきて、すごいと思いました。ついに中学校最後の学校祭が終わり少し寂しい気持ちもありますが、次にある合唱コンクールに向けて今回のようにクラスで力を合わせて良いイベントにしたいと思います。



<3年3組>

どのグループもちゃんと話し合って協力しながら作業できていて、とても良い雰囲気で行っていました。役者は練習時間が少し短かったと思いますが想像以上の出来具合で、さすがだなと思いました。この期間でこのクオリティはすごいし、見てる観客に笑いが起きていたから、ステージ大成功だと思いました。大道具・小道具・音響・照明も裏方として支えていて、この人たちがいなかったら、こんなに良いステージになってはいなかったと思います。他のクラスのステージ発表も完成度が高くて面白かったです。1年生は今年初めての学校祭にも関わらず、圧巻の演技で驚きました。体育館や廊下の装飾もポップコーンをイメージしていて、とてもわくわくしました。体育館が華やかになっていて、頑張りが伝わってきました。最後の学校祭でしたが、とても楽しめました。



<3年4組>

今年の学校祭はどのクラスもクオリティが高くてとても楽しかったです。1年生はスクリーン映像がすごかったり、ダンスを踊っていたりしていたので、テンション上げて楽しめました。装飾にもぎやかでいいなと思いました。2・3年生はパロディが多くて背景が細かかったり、衣装が世界観そのままだったりして見ていてとても楽しかったです。今回私は劇でスポットライトを頑張りました。少し空回ることもありましたが、本番でちゃんと成功できて良かったです。大道具では背景の色塗りや線を描きました。少し失敗しても絵の上手な人達が修正してくれたので心強かったです。みんなが頑張って作った劇なので成功できたと思うし、楽しめて良かったと思いました。



<2年2組>

私は今年の学校祭で大切なと思ったこと・自分自身の今後の課題を見つけることができました。まず学校祭で大切なと思ったことは、学校祭の活動期間中にクラスみんなで助け合いながら準備をしてきたことです。体育館や格技室などの練習でも声をかけあったり、大道具や小道具を準備したことで、効率よく練習を行うことができ、助け合うことは大切なと実感することができました。自分自身の今後の課題は、メリハリをつけて行動することです。大道具・小道具を作っている時に自分の仕事をほったらかして他の所に行ったり、誰かに話しかけに行ったりしてしまったところが自分のダメなところ、今後の課題になるところだと学校祭の準備期間を振り返って思ったことです。このように私は学校祭で大切なこと・自分の課題を見つけることができました。なので合唱コンクールやスポレクなどの行事ではクラスみんなで助け合いながら思い出に残るような行事にしていきたいです。



<1年2組>

初めて学校祭という行事を経験して、とても楽しいものだと思います。準備期間では、普段の学校生活では体験することのできない時間でした。自分たちで1から作るというのはなかなか難しいもので、たくさん悩んだり、大きなものを一生懸命作ったりしていました。そして全員が同じ目標に向かって作業するには、一人一人が最後までやり抜かなければならないということを学びました。みんなで協力してがんばった準備期間はとても楽しかったです。当日は見る仕事だけだったので、集中して見ていました。どのステージも個性があって、とても面白かったし、楽しかったです。印象深いのは1年5組と2年3組のステージです。5組のは動画もすごいし、劇が最後まで展開がよめなくて面白かったです。2年3組のは本当の映画を見ているようですばらしかったです。初めての学校祭、とてもいい思い出になりました。来年も全校の人を盛り上げられるようにがんばりたいです。



札幌市立栄町中学校 開校40周年記念 合唱コンクール

2025年10月28日(火)

場所:カナモトホール 札幌市中央区北1条西1丁目

開演:9時30分 <開場9時15分>